2001年（平成13年）11月10日発行　第259号　（昭和５９年１０月１日第三種郵便物認可）

教皇様の聲　11　259号

Libreria Editrice Vaticana,Citta del Vaticanoの転載許可済 2001

神は正義と愛の源

〔教皇様は、9月24日カザフスタンの首都アスタナで、文化芸術科学の各界の代表者にお話しされた。〕

今日皆さんにお会いできたことを心から喜んでいます。心から尊敬を込めてあいさつします。歓迎の言葉にも感謝しています。皆さんとひとときを過ごすことを喜んでお受けしました。カトリック教会と教皇が、教養を備えた人々に対して抱いている関心と信頼を再度示すためです。真理と善を示す皆さんの献身的な研究や能力のおかげで、人間らしい生活やその本質に対して貴重な貢献がなされていることをよく理解しています。（･･･）

豊かな文化を備える国

カザフスタンは広大な国です。数世紀の間、生き生きした地方特有の文化を起こし、豊かに創造的な発展を遂げてきました。全体主義の時代にロシアの知識人がこの地に送られたこともこの国の文化的発展に貢献しているでしょう。

どれほど多くの人がこの国を訪れたことでしょうか。特にベネチアの旅行家であり商人、マルコ・ポーロのことに触れたいと思います。中世のマルコ・ポーロは、この大草原地帯の人々の倫理観の高さや豊かな伝統を書き残し感嘆しています。草原は限りなく広がり、計り知れない自然の力に直面する人間の弱さや五感を越えた神秘を皆さんは認めることでしょう。自然や自然についての認識によって、皆さんは人間が抱く根本的な問いかけに奮い立ち、普遍的な文化にとって重要な解答を求めることになります。

皆さんは、カザフスタンの豊かな文化的伝統を世界に知らせるよう求められています。それは大変な仕事ですが、魅力的なことでもあります。伝統のより深い特徴を発見し、一つ一つの特徴を結びつけ、調和のとれた一致をもたらすことができるからです。

カザフスタンの偉大な思想家アバイ・クナンバイは次のような言葉を残しています。「宇宙の証明や隠れた神秘を認めず、万物の原因を捜し求めないなら、人は人ではなく動物とそう違いないということになります。神は人間に魂を与え動物と区別されました。非常に大切なことは、絶えず興味を広げ、魂を育てるための知識を増すことです。魂の善は肉体とは比較にならないほど価値あるものであり、現世的な必要性は魂の命令に従わせるべきなのです。」（「アバイの言葉」7章）

人間の心は神を知ることを望む

この深く賢明な教えに感心せずにはいられません。これはイエスが福音書でされた厳しい質問を解説しているかのようです。「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。」（マルコ8，36）人間の心は消し去ることのできない質問を問いかけます。この質問が無視されると、人間は自由にはなれずますます弱くなります。外からの攻撃は言うまでもなく最後には本能のいいなりになってしまうのです。

アバイ・クナンバイは次のように言っています。「心がもう何も望まないなら、誰がその考えを明らかにするのか。理性が自分を捨て望まなくなるなら、その深さは失われる。この名にふさわしい民が理性なしで何ができるだろうか。」（「詩」12）

このような質問はまさにその本質からして宗教的なものです。神を究極的な基盤とする超越的な価値に訴えるからです。宗教としては、このような存在に関わる問いかけに取り組まなければなりません。そうしなければ、宗教は生命とのつながりを失ってしまいます。

キリストは人間の心の奥深くにある問いに答える

キリスト者はキリストと呼ばれるナザレのイエスの中に完全な答えがあることを知っています。それ

は人間の心の奥深くにある問いかけに答えるものです。イエスの言葉、行い、最後の過ぎ越しの神秘は、イエスが人間のあがない主、世の救い主であることを明らかにします。この「良い知らせ」は、2000年の間、地上のあらゆる場所でたくさんの人によって語られてきました。今日、ローマ法皇は、謙遜に確信した証人として皆さんの前にやってきました。様々な異なる道で、善意の人々が続ける探求を尊敬しています。美しく輝く真理に出会った人は誰でも、その真理を他の人と分かち合う必要性を感じます。それは、掟に基づく義務というより、神を信じる者であれば、生命の素晴らしい価値を周りの人と分かち合う必要性を感じることからくるものです。

公に信仰を証しすることは神を信じる者の権利

したがって、性別、民族、国籍に関わらず良心の自由に対する基本的な権利が保証されている健全な政治国家においても、公に自分の信仰を証しするという信者の権利を認め擁護する必要があるのです。真の宗教的儀式が個人的な場所や社会の片隅のせまく限られたところだけに追いやられるべきではありません。礼拝のための新しい建物がカザフスタンの至る所に建ち始めていますが、その姿は美しく、霊的な再生と未来への約束の貴重な印となっています。

真のイスラム教に対する尊敬

教育・文化センターが進歩するには、この国の歴史における非常に重要な宗教的成果についての知識を深めることです。２００１年元旦の世界平和の日のメッセージで、西洋文化に対する「隷属的な順応」についてお話ししました。「様々な西洋の文化モデルは、その著しい科学技術的雰囲気で人々の心を引きつけますが、残念なことに、人間性や霊的倫理的な衰退を深めていることがますますあらわになっています。こういった結果をもたらす文化は、最高善である神を排除することで人間の善を求めようとする致命的な試みを行っています。」（9番）

もう一度、偉大な指導者アバイ・クナンバイに耳を傾けましょう。「どの宗教に属する人でも、愛と正義は神から来ると考えます。愛と正義は人間性の源です。愛と正義の心が打ち勝つ人こそ真の賢者です。」（「アバイの言葉」45章）

ここカザフスタンでの出会いと対話の中で、また素晴らしい皆さんの前で、カトリック教会の真のイスラム教に対する尊敬を再確認したいと思います。祈るイスラム教徒、困っている人を助けたいと思っているイスラム教徒です。記憶に新しいものも含めて、過去の過ちを思い起こし、神を信じる者は皆一致して、神は人間の野心の抵当ではないということを確かめるべきです。憎しみ、狂信、テロ行為は、神の名を汚し人間の真の姿をゆがめます。

（･･･）

皆さんとの対話も終わりに近づきました。教皇とカトリック教会は全能・最高善の神にカザフスタンのため心から祈っています。　(2001.9.24)

聖性の道

〔教皇様はイタリアのフロシノーネを訪問され、4万人が集まったミサの中で、
放蕩息子のたとえ話とパウロの回心に示される御父のあわれみについて考察された。〕

1　父よ、あなたの赦しの喜びをお与えください。（答唱詩編参照）

「あなたの赦しの喜び」、これは「良い知らせ」であり本日の典礼に鳴り響いています。赦しは人の喜びである前に神の喜びです。神は悔い改める罪人を喜んで迎えます。当然神は無限のあわれみを持つ慈しみ深い御父ですから、人間の心に赦しの希望と和解の喜びをかき立てられます。（･･･）

失われた息子の帰還に喜ぶ父親

2「神は私たちの心より偉大」とアレルヤ唱で歌いました。今日の第１朗読では、モーセが神のみ心を知り不忠実な民のために赦しを願えることを証しし（出エジプト32,11-13参照）、福音では私たちを神のあわれみの神秘に招いています。ここでイエスは神のみ顔を示され、私たちは御父のみ心を深く知ることができます。御父は失われた息子が帰って来るのをいつでも喜んでくださるのです。

使徒パウロも神のあわれみを特に目撃した人です。忠実な協力者テモテに宛てられた手紙（第２朗読）の中でパウロは自分の回心を取り上げ、キリストが罪人を救うために世に来られたことを証明します。（1 テモテ1,15-16）

これこそ教会があきることなく伝え続けている真理です。「神は無限の愛で私たちを愛される」神は人類に御独り子をお与えになり、御子は私たちの罪の赦しのために十字架上でお亡くなりになりました。ですからイエスを信じることはイエスを救い主と認めることを意味しているのです。私たちは心の底から「あなた

おわび…九月号の四ページ目「光を投じる主の変容」の三行目で使徒ペトロとすべきところをパウロとしてしまいました。おわび申し上げます。

（昭和５９年１０月１日第三種郵便物認可）

は私の希望」と言うことができ、また兄弟の皆さんと一緒に「あなたは私たちの希望」と言うことができるのです。（･･･）

福音を黙想し愛し考察することは主のみことばを聞くこと

3 現代は特に、人類の救い主キリストについて伝えていく必要性に迫られています。キリストの愛が全ての人に知られ、あらゆる所に広がるためです。2000年の大聖年はキリストを伝える摂理的な機会でした。しかしこの道を続けていかなければなりません。聖年の終わりに教会と世界に対して、キリストがペトロに向かってされた招きを繰り返しました。「沖に漕ぎ出」しなさい。（ルカ5,4）

もう一度皆さんにこの言葉を繰り返します。勇気ある霊的刷新へと皆さんが導かれ司牧計画が具体的なものとなるためです。イエスから目を離さないようにして現在と未来を築いてください。教会にとっても人間の救いにとってもイエスが全てです。大聖年と共に、カトリック教会はキリストのみ顔を求めて出発しました。教会はキリストのみ顔から出る光を黙想する必要性と情熱をもっと意識しなければなりません。それは、教会の日々の旅路においてキリストのみ顔を反映するために必要だからです。神の御子イエス、ご聖体のイエス、慈悲深いイエス、私たちの希望であるイエス。イエスは私たちの全てです。

神のみことばを学び考察する強化期間が司牧共同体で広がりますように。聖書を黙想し学び愛することは謙遜に注意深く主の言葉を聞くことと同じです。それによって共同体は、みことばの食卓を囲み成長するでしょう。みことばは研究方法と選択を照らし、努力して向かうべき目的地を指し示します。しかし、みことばは何よりもまず、魂における信仰に明かりを灯し、希望を与え、福音を全ての人に伝えたいという望みに活力を与えます。（･･･）

聖体は司牧生活の源

4 兄弟姉妹の皆さん。聖体が皆さんの霊的使徒的旅路の中心と目じるしになりますように。事実、秘跡的生活は教会の恵みと救いの源です。あらゆるものは聖体のキリストで始まり、全てのものは生きるキリストに戻って行きます。キリストは世界の中心、教区の中心です。皆さんが生活の中心にキリストを置くことを願っていますが、本当にそれができれば、一人一人が個人的にキリストを受け入れることだけでなく、キリストを示し、与え、伝えることも要求されていることがわかるようになるでしょう。皆さんはキリストの名において「良いサマリア人」のように、困っている人、貧しい人、恵まれない人の中でこのことを実行するべきです。また遠い国々からこの地域にたどり着いた移民の人たちにも伝えなければなりません。「礼拝や清め」「奉仕することや慈しみの証人」になるという活動のすべてが聖性のあふれる源、すなわち聖体の秘義からあふれ出ることがわかるでしょう。聖体は皆さんが聖性を熱望するよう呼びかけます。皆さんはこの地方の聖人たちの足跡を歩いて、天国の御父が聖であるように、御独り子キリストが聖であるように、そして皆さんの心に住む聖霊が聖であるように皆さんも聖人になるという基本的な目的をすえました。祈り、聖体への参与、愛の業、謙遜で寛大な良い生活を証しすることで人は聖人になります。

聖性は特別な道ではない

5 親である皆さんに特に告げたいことがあります。皆さんの献身で、神は善であり大きな愛であることを子供たちに示してください。皆さんの誠実さと勤勉な生活によって、聖性が特別な道ではないことを教えてあげてください。

10月21日の日曜日、祭壇上の誉れにローマの夫婦を掲げるという喜びを得られることになりました。ルイジ・ベルトラーメ・クァトロリッチと妻のマリアです。二人の列福式は家族のための国民会議の中で祝われます。この会議はイタリア司教会議が計画したもので、20日土曜日の午後と21日にローマの聖ペトロ広場で行われます。この２つの行事には私自身も参加したいと思いますし、司教や司祭、イタリアの全家族、特に二人の福者が住んでいたラチオの人々を招きたいと思っています。会議と列福式は、キリスト者の家庭の聖性への召命を考える機会となるでしょう。同時に、家庭の社会的役割という大きな理解を獲得し、ふさわしい法律や規定で家庭を守り促進する機関を求める機会ともなるでしょう。

このフロシノーネ・ベローリ・フェレンティーノ教会が聖人の家庭となりますように。著名人や福音書の寛大なしもべの故郷であるこの愛すべき土地で、皆さんが「地の塩」「世の光」になりますように。（マタイ5,13-14）

皆さんは今回の訪問のために熱心に祈ってくださいました。教会の母マリアが皆さんに付き添い、その取り次ぎで皆さんが絶えず生き生きとした共同体であり、信仰に固く、希望につなげられ慈しみに満ちた行いに励むことができますように。（･･･）

若者の皆さん、思い出してください。「私たちの希望」イエス・キリストは旅路を導く確かなコンパスです。キリストに目を向けキリストに信頼してください。聖性の道を勇気を出して進んでください。教区共同体と共に司教や司祭の指導のもとでためらわずに続けてください。主は皆さん一人一人を信頼し、「生命と愛の文明化において先頭に立つこと」

を望んでおられます。互いに助け合い、仲間の間で福音を証しする使徒になってください。

皆さん一人一人をお迎えします。また、世界青年大会で少なくとも霊的に皆さんとお会いすることを約束します。神をお喜ばせする世界青年大会は、来年の7月、世界青年の日にトロントで行われます。この若者の集いのために準備してください。この若者の集いは今後も、全大陸の大勢の若いカトリック者に形成を与える旅路となるでしょう。皆さんも祈りで準備してください。そしてもっとキリストを知り愛し、具体的な方法で兄弟姉妹に仕えるために一日一日を利用してください。

教皇は祈りで皆さんの後に続き、愛を込めて祝福します。　(2001.9.16)

謙遜と慎しみの価値

〔カステル・ガンドルホでの一般謁見で教皇様は年間第22週の主日の朗読をもとに謙遜について話された。〕

1　9月も始まり、日常の生活のリズムが戻っています。夏の休暇の後、様々な活動が再開され、新学期もまもなく始まろうとしています。

キリストに基づく生活は謙遜を重要視する

このような時期に、本日の朗読で読まれたシラ書にある聖書の言葉は特に注目に値します。「子よ、何事をなすにも柔和であれ。そうすれば、施しをする人にもまして愛される。偉くなればなるほど、自らへりくだれ。そうすれば、主は喜んで受け入れてくださる。」（シラ3,17-18）

これは現代の流れとはまったく逆の考えです。今の世の中の傾向は、目立つことや先頭に立つことをこうかつにためらいなく奨励し、個人的な自分だけの利益を強く擁護します。しかし神の国では、謙遜な人慎ましい人が報われます。逆に地上においては、しばしば社会的な出世やおごりが勝利し、誰もが競争、力の乱用、失望を目にしています。

イエスは30年間、謙遜に慎ましく生活し働かれた

2　神のみことばは正しい方法で物事を見る助けになります。正しい方法は永遠の道でもあります。今日の福音書の朗読でも、キリストはおっしゃっています。「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」（ルカ14,11）神の御子ご自身は、絶えず謙遜の道をたどられ、地上でのほとんどの年月をマリアとヨセフとともに、大工の仕事をしながらナザレトで隠れてお過ごしになりました。

イエスは古代賢者の忠告を生きられたのです。「子よ、何事をなすにも柔和であれ。... 偉くなればなるほど、自らへりくだれ。」（シラ3,17-18）イエスは謙遜に生きることで、全時代の人にこう告げたかったのです。うわべだけのことや社会的出世は、たとえすぐに成功を得られるとしても、人間と社会の真の善に続くとは限りません。神の国は、まじめに正直に働く人々によって間違いなく効果的に準備されます。そのような人々は、傲慢なことを望まず、日々忠実に慎ましいことへと目を向けます。（ローマ12,16参照）

日々の活動において正しい道を歩めるよう マリアが助けてくださいますように

3　救いというキリストの普遍的な計画を実行するために、主は「身分の低い、この主のはしためにも目を留め」られました。（ルカ1,48）幸いなおとめマリアです。数日後マリアの誕生（9月8日）を祝うことになっています。信頼を込めてマリアに頼みましょう。謙遜と一人一人の積極的な貢献によって、仕事や家庭でのあらゆる活動が本当に謙遜な雰囲気で行われますように。

(2001.9.2)

「教皇様の聲」　ヨハネ・パウロ二世教皇の説教、書簡、講話等を解説なしにそのまま伝える月刊紙
■毎月10日発行　■**定価**：送料とも一部186円　■**年内定期購読**：送料とも一部2,087円（税込）
詳しくは、精道教育促進協会までお問い合わせ下さい。
財団法人■精道教育促進協会 〒659-0093兵庫県芦屋市船戸町12-6 TEL. 0797-34-5920
FAX. 0797-34-4920振替口座：01130-8-72393 財団法人 精道教育促進協会
＊電話受付時間は　月曜日午前9：30～11：30、火・水曜日午後1：30～午後5：00、
木曜日午前9：30～11：30、となっています。